

森とのつながりを、SDGsアクションへの入口に

SDGs特集 森林体験 × SDGs 第16回

SUSTAINABLE GOALS

SDGsとは、持続可能な開発に向けて、2015年9月の国連サミットで採択された世界共通の目標で、17のゴールとその達成に向けた具体的な169のターゲットが示されています。岐阜県は2020年に、SDGs達成に向けて優れた取り組みをする「SDGs未来都市」に選定されました。



岐阜県立森林文化アカデミーの
萩原ナバ裕作准教授



レンタルして楽しめる「森とつながるハンモック」

OKB 大垣共立銀行

一生涯のパートナー

第一生命

Dai-ichi Life Group

大垣カーテン

岐阜県JAグループ

長谷虎紡績株式会社

ここにとどく
花キューピット 岐阜支部

岐阜信用金庫

リード[lead]進学塾・予備校

JUROKU Financial Group

十六銀行

私たちが持続可能な開発目標
SDGsを支援しています。

プロジェクト特設サイトオープン

最新事例を紹介

支援している企業の
取り組み情報や活動事例の
紹介はこちらから



取り組み企業、事例について
お寄せください。

SDGs岐阜推進プロジェクト事務局
中日アド企画 岐阜支社内
岐阜市柳ヶ瀬通1-12 岐阜中日ビル7階
TEL.058-265-6281

課題解決のヒントは 森林の中にある

岐阜県は、県土の約8割を森林が占める豊かな場所。その恵みを多くの人に感じてもらうため、2020年に岐阜県立森林文化アカデミーの敷地内に設けられたのが、森林総合教育センター・愛称「モリノス」です。ここでは「すべての人と森をつなぐ」をコンセプトに、広大な自然を体験学習のフィールドとして活用し、散策や工作、焚き火などを自由に楽しめるほか、アートやものづくりなど多彩な切り口で森林に親しめる体験プログラムを開催。森林を肌で感じながら、森林の役割や森林と共に生ずる文化の豊かさを学ぶことができます。

施設の発案者で、現在も運営に携わる萩原ナバ裕作森林文化アカデミー准教授は、「人の暮らしに欠かせない水や空気、素材は、すべて森から生まれています。SDGsを考える時、森は単にゴール15にある陸の豊かさだけに留まらず、すべての課題解決に関わるヒントがある。それを学ぶのではなく感じること、用途や時間軸など多面的に見て、つながりを意識することが、これから持続可能な社会をつくるために、重要な力がになると思います」と、SDGsにおける森林体験の大切さを伝えます。

また森は、そこにあるものを使ってゼロから自由に遊びやモノを生み出せる空間。その中の体験は、未だに向かって誰も正解が分からない課題に立ち向かい、行動できる人づくりにつながると萩原准教授は話します。「自然は予測がつかないものだからこそ、失敗もありますが、失敗がないとイノベーションは起こりません。ここは、思い切り失敗を楽しめる場にしたいですね」



設立から2年目を迎え、多くの人が自然体験を求めて訪れるモリノス。しかし萩原准教授は、「施設足を運ぶのは環境への意識が高い人に限られる」と考え、2021年に講師として各地へ出向いて自然体験を行う「森の出張体験」をスタートしました。大手住宅メーカーと共同で、教育プログラムや教材を独自開発し、学校などを中心に身近な自然の中でできる体験を実践するこの試みは、年間50回程度を予定しており、都市部などで普段は自然とふれ合う機会が少ない子どもたちに、貴重な時間を提供しています。萩原准教授は、今後も野外フェスなど親子連れや若い世代が集まる場にも出向き、より幅広い人に自然体験をする機会を創出していきたいとしています。

SDGsという言葉が浸透してきた昨今、環境保全の重要性を多くの人が認識し始めています。次に必要なのは、実際に課題の解決法を考え、生活や行動を変えるきっかけ。それは、日々私たちが環境との関係性の中で生きていることや環境の役割を実感し、自分事として認識する体験にあるのかもしれません。

施設を飛び出し 森の出張体験を実施